

 シラバス参照

授業基本情報

講義番号	076049
授業科目	口腔感染防御論
担当教員（所属）	高柴 正悟 (07：歯学部)
学期	2017年度 Q：3学期
曜日・時限	火曜3, 火曜4
単位数	1
教室	第一示説室
ナンバリングコード	NDGZ0DEDZ4003A
印刷用ページ	https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campusquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&nendo=2017&shozoku=07&jikanwari=6049&sylocale=ja_JP
科目区分	専門科目
対象学生	4
必修・選択の別	必修
連絡先	(内線) 6675/stakashi@okayama-u.ac.jp
オフィスアワー	全体に関しては、火曜日17:00～、木曜日8:30～10:00（ともに、歯学部棟7F 歯周病態学分野） ★事前の連絡を、高柴まで本学のe-mail addressを用いて、行うこと（携帯メールは対応できない場合があります）。
学部・研究科独自の項目	B -4-1) 口腔疾患の疫学 C -3-1) 感染 C -3-2) 免疫 C -4-4) 炎症 E -3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因
使用言語	日本語
授業の概要	辺縁性歯周疾患と歯髄疾患・根尖性歯周疾患の病態を生物学的な基礎に基づいて解説し、これらの疾患の病因、診断、治療法、ならびに予防法を教授する。さらに、全身状態における局所の慢性炎症の影響を理解し、「口腔内科」への発展的・学際的な考え方を理解させる。
学習目的	一般目標（GIO）： 口腔感染症の病態とその全身への影響を理解するために、歯周組織に関する生物学的な基礎知識および辺縁性歯周疾患と歯髄疾患・根尖性歯周疾患の病態とそれに基づく治療法について理解する。
到達目標	行動目標（SBOs）： 1. 口腔内感染症の病態を修飾する宿主因子と病原因子を説明できる（想起） 2. 辺縁性歯周疾患と歯髄疾患・根尖性歯周疾患の病態を、細菌感染と生体防御のバランスの観点から説明できる（想起） 3. 口腔内感染症の診査・診断と治療法を説明できる（想起） 4. 個体医療の概念を説明できる（想起） 5. 口腔内感染症と全身疾患との関連性を説明できる（想起） 6. 論文等を適切に活用し、科学的な判断ができる（解釈） 7. 口腔内感染症を全身の健康と結びつけて考える習慣を身につける（態度・習慣）
授業計画	1 10月3日 感染・臨床免疫学の概説 基礎の復習と現代の臨床での問題点（易感染性宿主）高柴教授 2 10月10日 歯周組織の特異性 解剖学的な特徴からの問題点と一般的な生体反応の存在 高柴教授 3 10月17日 宿主-寄生体の相互反応 組織破壊の原因 高柴教授 4 10月24日 常在細菌との共生 消化管としての口腔と腸内の細菌叢 高柴教授 5 11月7日 院内感染症 易感染性宿主の増加、薬剤耐性菌の増加、歯科医療行為の潜在的感染拡散 高柴教授 6 11月14日 エマージング感染症とパンデミック感染症 組織的な原因追求とアウトブレイク

	ク対策 高柴教授 7 11月21日 口腔バイオフィルム感染症 実態と全身への影響、そして対策 高柴教授 8 11月28日 口腔感染防御論：試験 試験とまとめ、前半は試験、後半は試験問題解説から講義をまとめる 高柴教授
授業時間外の学習（予習・復習）方法（成績評価への反映についても含む）	過去の講義資料の一部を事前に見ておくこと。以下のリンクからアクセス。パスワードは、ps6675。
授業形態	(1)割合 講義形式：70% 講義以外（学生との対話、グループディスカッション等） 30%
使用メディア・機器	PowerPoint等を用いた視覚教材 学生はICT機器を用いて、資料収集（研究分野のHP等から）
教科書	講義中に適宜紹介する。 事前に、 http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~perio/bind2/cn11/pg60.html にある口腔感染防御論 Oral Immunologyの資料を予習しておくこと。
参考書等	講義中に適宜紹介する。講義の資料も配布する。また、図書館とInternetを利用して検索を行い、情報収集することも必要になる。 以下も講義の合間に参考にどうぞ 1. 感染症から身を守る本―見えない敵の正体と脅威、これだけは知りなさい (KAWADE夢新書) (単行本 (ソフトカバー)) 岡部 信彦 (著) ¥700 2. 図解 感染恐怖マニュアル (文春文庫PLUS) (文庫) 病原体との共存を考える会 (著) ¥600 3. 人類vs感染症 (岩波ジュニア新書) (新書) 岡田 晴恵 (著) ¥819 4. 人体常在菌のはなし―美人は菌でつくられる (集英社新書) (新書) 青木 阜 (著) ¥714
成績評価	毎回講義内容とその感想をレポートにして提出してもらうことによって授業に対する姿勢とともに個人の知識や思考能力を評価する。また、講義内容に関する筆記試験（単に知識を求めるものではないことに注意）を行う。試験60点、レポート30点、出席10点
担当教員の研究活動との関連	歯周炎の病態解明のため、免疫学的ならびに細菌学的研究を展開している。研究内容はまさに口腔感染防御論に直結するものである。学生を対象とした場合には難解な内容を含むものもあるが、歯周病研究の方向性を示すために講義に取り入れる場合もある。
受講要件	歯学部生は必須
他学部学生の履修の可否	可
教職課程該当科目	この項目は当該科目には該当しない
J A B E E との関連	関連しない
備考／履修上の注意	これから開始する歯周病病態診断・治療学や歯髄病態診断・治療学への橋渡しとして、基礎と臨床を繋ぐ講義となる。 さらに、「口腔内科学」への発展のため、「歯学とはどんな学問か」を考える。 これらの連携を通して、口腔感染症のとらえ方を学ぶ。

DP要素

人間性に富む豊かな教養【教養】	20%
目的につながる専門性【専門性】	40%
効果的に活用できる情報力【情報力】	30%
時代と社会をリードする行動力【行動力】	
生涯に亘る自己実現力【自己実現力】	10%
関連割合の合計	100%